

序

本論文は、8世紀から10世紀にかけてのアッバース朝時代のアラビアにおけるギリシャの学問が翻訳され、論証的な学問がアラビアで発展していく様子を論じたものである。本論文は、10章からなる。第1章は序論として、アッバース朝のアラビアにおいてギリシャの学問が翻訳されるとともに、論証的な学問が発展した様子を概観し、先行研究と本論文の内容を紹介する。第2章では、アッバース朝における翻訳活動を概観する。第3章は天文学の分野に着目し、計算優先のインド天文学から論証重視のギリシャ天文学への移行過程が論じられる。第4章と第5章では、宗教に目を転じ、マニ教やキリスト教などの異教からイスラーム教の正当性を主張するために論証が重視された社会的事情を指摘する。第6章では医学の分野においてもガレノス医学が導入され、論証性が重視されたことを述べる。第7章、第8章、第9章では論証的な学問への志向性が広がり、アリストテレスの論理学を修得した論証法を専門とする論理学者の登場と彼らの活動について概説する。最終章において、以上のような論証的学問の誕生と普及がギリシャ学問の翻訳と導入と相関関係をもっていたことを結論する。

三村太郎氏の論文「アッバース朝におけるギリシャ学問の存在意義とは何かー論証科学の展開を中心としてー」は、アッバース朝の初期におけるギリシャ学問の翻訳と受容の過程を、論証科学の導入と展開という観点から論じたものである。西洋の科学の発展は古代ギリシャに端を発し、近代西欧において近代科学としての体裁を得るようになったことはよく知られている。科学革命の以前にあって、古代ギリシャの学問はアラビアを経て12世紀に西欧に伝えられ、アリストテレスを始めとする諸学問は大学で講じられる学問の体系となった。このように古代ギリシャの学問を中世後期の西欧に伝えたアラビアにおける科学史の研究は、科学史研究において非常に重要な研究分野でありながら研究の進んでいない分野である。三村氏の研究は、このようなアラビア科学の歴史研究において、論証性という大きな特徴を有するギリシャ学問のアラビア世界における受容を、学者たちが活動する制度的な場、社会的背景を考慮しつつ論述することで、アラビアにおける科学研究・学問研究の前提となる基盤を明らかにしたものであり、今後のアラビア科学史の研究に大きく貢献するものとして高く評価されるものである。研究にあたっては、英独仏はもちろんギリシャ語・ラテン語・アラビア語、さらにサンスクリットとシリア語を読みこなすことによって当時の一次史料に直接あたり、的確かつ興味深い文章を多数引用してくることに成功している。論述の面では、些細な点において多少不満な点も残されていたが、それをはるかに上回る学問的な意義をもっていることが審査において高く評価された。

本論文のテーマであるギリシャの諸文献のアラビアへの受容については、ディミトリ・グタス『ギリシア思想とアラビア文化』においてよく論述されているところであるが、三村氏はその議論をよく保管する観点として、アラビア社会において論証という営みが重視され学者の間で普及していくことに着目し、天文学・神学・医学などの諸分野についてそのことを明確に示した。社会的に大きな意味をもつ占星術と関係する天文学においては、当初計算方法の進んだインド天文学がよく導入されたが、プトレマイオスのいわゆる『アルマゲスト』が紹介されることによって、アラビアの天文学者たちはインド天文

学からこの論証的な形式を備える幾何学体系として表現されたギリシャ天文学に深く傾倒していくことになる。アッバース朝期のアラビア社会における論証重視の傾向を見る際の鍵として、三村氏は次に宗教界における論証の必要性に注目し、ペルシャとの深い関係にあったアッバース朝の社会においてイスラームを正当化するために世界観に踏み込んだ議論がなされるとともに、弁証や論証が重視されていたことを指摘する。ムタカッリムと呼ばれる学識者たちの存在、またマジユリスと呼ばれる宮廷において議論がなされる制度的な場の存在なども説明した上で、9世紀の優れた哲学者・科学者であったキンディーが論証的な学問を非常に重視していたことを論じる。次に、医学の分野においてもガレノス医学の受容にあたって、9世紀の宮廷医タバリーらの著作を引用しつつ、論証的な性格を有するガレノスの医学書を積極的に翻訳し吸収していった経緯が語られる。またアリストテレスの学問との関係から、論証性を重視するが故に、ガレノス医学を批判する場面も存在したことが指摘される。そしてさらに、論証が重視されることで論理学を専門とする学者が登場することを論じる。また、哲学者ファーラービーが、プラトン以降のギリシャ哲学の継承の系譜を、実際の経緯とは異なりアリストテレスを重視して理解していたことを指摘し、当時のアラビア思想界においてアリストテレスと論証的学問が重視されていたことを論じる。

審査は、科学史・医学史・哲学を専門とする教員とともに、この時期のアラビア天文学を専門とする研究者、この時期のシリアの学術思想の歴史を専門とする研究者によってなされたが、いずれも本論文に対しては高度な語学読解力に基づく史料の調査と読解、多くの興味深い文献の発見と紹介、読みやすく興味深く構成された論述などの点で博士研究論文として高い評価がなされた。

結び

よって本論文は博士（学術）の学位請求論文として合格と認められる。